

霜 月

後藤菊子

十一月の上旬、鎌取に用事があつた時、少し時間が空いたので駅の周辺を歩いてみた。北口駅前の道幅の狭い旧道に出ると車がだいぶ渋滞していた。それを見ていたら、そろそろ冬鳥が渡って来る時季が来たのだなーという思いが頭を掠めた。

渋滞の旧街道や鳥渡る

にぎやかな駅前を10分程歩くと下総橋に出た。橋の下は高速道路で今日も車の数が多かった。橋を渡りきると景色がすっかり変わってしまった。一面の雑木林になっていて、コナラ、クヌギ、イヌシデ、イチヨウ、カエデなどの落葉樹の美しい黄葉に混じりシラカシやスギの緑が日差しに照らされて眩しい……ドングリが沢山落ちていたので、ついつい拾ってしまった。

下総橋わたれば雑木黄葉かな

道の両側の草紅葉も風に靡き何とも美しい……セイタカアワダチソウなどの草の絮が風に飛ばされていた。

素十忌や風の中なる草の絮

あつという間に一時間ほどが経ってしまいそろそろ帰らないと……南口駅前のバス停に着くとまた賑やかな街の景色になった。一〇分ほどバスに揺られていたら、久し振りに生実神社に 参ってみようと思い一つ手前のバス停で降りてみた。

鳥居の手前に道祖神や庚申塚の石塔がならんでいた。時々近所のお年寄りが、お賽銭をあげて祈っている姿に出会う ことがあつた。だいぶ風化が進んでいるが風情があつた。

露けしや目鼻のうすき石仏

狭い境内には、御神木のスダジイ、クスノキ、スギなどの保存樹木が鬱蒼と茂っていた。今年に残念ながら見られなかったが、毎年この神社の境内では町内の青年部の方々が、秋祭りの一環として、夜八時頃から境内の特設の舞台で村芝居（主に時代劇）をするのが 恒例になっていた。近所の顔見知りの方々が一生懸命に演じているのは、なかなかのものでした。お参りをして家に着くと夕飯の時間になっていた。台所に入ると薄暗い隅のほうに新聞紙に包んでおいた葱が三センチほど伸びていた。

葱一寸のびて厨の暗さかな

今日も一日あつたこと振り返りながら夕飯の支度にとりかかった。

町内逍遙

後藤菊子

かつて日本では月の運行をもとに作られた旧暦とよばれている暦がつかわれていましたが、明治六年に太陽暦（新暦）に変わりました。しかし旧暦の方が季節を感じられると思っている方も多いのではないのでしょうか？

旧暦には二十四節気という一年を二十四等分したものがあります。

春の節気は「立春」「雨水」「啓蟄」「春分」「清明」「穀雨」です。

手紙や天気予報、俳句、新聞のニュースなどでよく使われています。

そこで立春を過ぎてなんとなく春を感じられそうな午後、少し時間が空いたので、町内を散歩してみました。いつもと違う道をと思いながら歩いていくと、大きな屋敷林のある旧家の前に出ました。此のあたりは屋号のある家が多くあり、ここのお宅もその一軒です。

お願いして屋敷林に入らせて頂きました。庭のすみには屋敷神も祀っており、樹齢百年以上と思われる立派なヤブツバキが数本ありました。優しそうなおばあさんにいろいろと楽しい話をお聞きました。

女系三代椿大樹や屋敷神

庭にはマンリョウが植えられその赤い実が地面にこぼれていて美しい・・・お礼を言って屋敷林を出て林縁に沿って歩いて行くと、ヤブコウジが群生していました。気が付くと最近下ばかり向いて歩いていることが多い気がしました。

俯きて歩く癖つき藪柑子

姿勢を正して歩いてゆくと、先日降った斜面の雪がまだ少し残っていました。固い土を持ち上げるように青々とした野草も顔を出し始めていました。

足元の土は眠りて雪間草

植物の逞しさにはいつも感心させられ、元氣をもらえるような気がします。少し行くともう田起しをした田圃、まだ起こされていない田圃がみえてきました。畦にはタネツケバナ、ハコベ、オオイヌノフグリ、ホトケノザなどが出はじめていました。もう少しすればそれぞれ可愛い花を付けてくれるでしょう・・・二時間ほどがあつという間に過ぎてしまい、そろそろ家に帰らなくては思い空を見上げると一面の枯野に夕日がうつくしく映えていました。

ことごとく夕日飲み込み大枯野

今日も自然の素晴らしさ味わい楽しい散歩でした。

生実池（おゆみいけ）

後藤菊子

桜の便りがあちらこちらから届きはじめて3月の下旬、朝から小雨が降っていました。手に受けてみると、なんとなく暖かな感じがしました。

手の平に春の先触れ今朝の雨

朝食の後に雨が止んだので、近くの生実池に行ってみました。この池はもともと生実城の要害池として構築されたのですが、明治以降この地域の灌漑用水池として利用されてきました。しかし最近は殆どその用をなしていません。

毎年浚渫をしているのですが、上流からゴミや汚水が流れこんできて、なかなか水質がよくなりません。

でも暖かくなると多くの釣り人が釣りを楽しみ、また近所の人達の散歩コースにもなっています。春には池の周りの桜が毎年私達住民をはじめ遠方からの花見客の目を楽しませてくれます。今は三分咲きというところでしょうか・・・

夏にはオオガハスが繁茂し池の半分ほどを覆い美しい花が見られます。

またお盆には盆踊りや花火大会が開催され、夜店なども出て若者や家族連れで賑わいます。

生実川に沿ってゆつくりと歩いて行くと、土手には柔らかなヨモギが群生していて、それを近くの保育所の園児たちが摘んでいました。

風に乗って良い香りが届いてきました。蓬餅でも作るのでしょうか？

ひらひらと園児らの手や蓬摘む

またカキドオシが可愛いピンクの花を付けていたので、私はその香りを楽しみました。

流れにはヨシ、コガマなどが新しい芽を出し、田起しがされた田圃にはタネツケバナが一面に咲き、湿田の淵には柔らかなセリも生えていたので引いてみました。

芹引けばとろりと泥のかがやけり

用事があるのでそろそろ帰らないと・・・三分咲きのサクラを見上げながら帰りました。そういえばサクラをゆつくりと見たのは今年になって初めてでした。

初花や息ととのへて人と逢ふ

今日も良い日になりそうな気がしました。

船橋・古和釜(こわがま)地区

後藤菊子

十一月の中旬、俳句の仲間と船橋古和釜地区の東光寺・西光院とその周辺を吟行した。

J R 船橋駅北口から二十分程バスに乗り古和釜十字路で降り、通りを渡ると家々が疎な古和釜地区に入った。細い道を皆で歩いて行くとすぐに東光寺に着いた。

東光寺は天台宗の寺院で無住寺であった。寺の起源は不明であるが、境内には墓石が沢山並んでいて、殆どが放置されているようで、落葉に埋もれている感じだった。墓地からは室町時代の板碑などが出土しているようだが見る事が出来なかった。また、石造の「自休大徳坐像」が境内のガラス張りの祠に安置されていた。殆ど手入れをされていない境内の銀杏や棕の木々は葉を落としていたが、その幹や枝々が大地にしっかりと影を落としていた。

無住寺や冬木の影のたどろがず

東光寺を出ると一面に礫田が広がっていた。やわらかな日差しの中を歩いて行くと、疎らな家々に柚子や藪椿が植えられていて美しい……。鴨上戸が赤い実を付けて垣根に絡んでいた。

風筋に熟るる鴨上戸かな

細い道をゆっくり三十分程歩いて行くと西光院に着いた。

船橋大穴という処で江戸時代後期の俳人「斎藤その女」とその一族の唐破風付の立派な墓碑が数基並んでいた。

斎藤家は名主の総代を務めた豪農で「その女」は若い時から俳諧を志し、句集も出していたようだ。墓石の隣の碑に「極楽の鐘をかぞへて杜鵑」という句が刻んであった。「その女」は船橋市が生んだ著名な文化人であった。

西光院を出て細い坂道を上ると大穴松山に出た。針桐、楠、白樫の大樹が茂る林を小鳥達の声を聞きながらのんびりと歩いた。白樫の大樹は数百年程経っているように思えた。沢山の白樫の団栗を踏みながら歩いて行くと一面の畑にでた。老夫婦が黙々と畑を耕していた。

秋耕の土黒々と夕日中

大通りに出る手前に数本の赤樫が大きな実を落としていた。その先の町境の木に藁で編んだ大蛇が絡ませてあった。最近はまだ見られなくなったが、昔は村々の境に藁の大蛇を木に絡ませ、疫病や災いが村に入らないように祈ったのである。この地区ではその風習がまだ伝承されていた。

藁蛇の崩るるままに秋ゆけり

バスで船橋の駅に戻り解散になった。

早春の我が町

後藤菊子

一月の始め近くの生実池に行った時、カワセミの番が枯れ蓮に止まっているのに出会った。これまでも時々カワセミを観かけた事はあったが、番は初めてだったので驚きと嬉しさでわくわくしてしまった。そこで時間があるときはなるべく観に行くようにした。立春を過ぎた頃の午後、早速出かけてみた。池に着いてゆっくり歩いてみると、あちこちにふつくとしたモグラの塚がいくつも続いていた。オオイヌノフグリ・ホトケノザ・フラサバソウなどが可愛らしい花を付けて咲き始めていた。

土竜塚のふはと乾きて春の草

池の方に目をやると、この日も杭に止まっているカワセミの♂がいた。しばらく観ていたが♀はあらわれなかった。コサギ、カルガモ・オオバン・カワウ・コガモ・カイツブリ・ハクセキレイ・セグロセキレイなども観られ池面が賑わっていた。

しばらく観察した後、生実川沿いを歩いてみた。川の両側に植えられている桜の木の新芽を啄んでいる二〇羽ほどの小鳥がいた。カワラヒワの群れだった。春がそこまで来ているのだと思いい心が弾んだ。

この川にもカワセミの♂が観られた。低い木の枝から川面をじっと見ていた彼は、コバルトブルーの背とオレンジ色の腹を一直線にしてダイビングしたが収穫はなかった。その後何回か試みたが失敗に終わった。しかし根気よくまだ水面を見ていた。カワセミとはお別れしてゆっくり歩いてまた池に戻ってみた。そろそろ下校時間なのか学校帰りの一人の児童に出会った。俯き加減の少年がハハコグサを摘んでいた。お土産にするのかしらなどと思って見ていた。きつと心の優しい少年に違いない。

道草の少年に会ふ母子草

西の空がだんだんときれいな夕焼け空になりはじめた時、なんとカワセミの番が杭に止まっていて、まるで絵のように美しかった。今年はもしかしたら、カワセミの番に新しい命が生まれるかもしれないなどと思いを馳せた。

翡翠の番おさまる春夕焼

今日は良い出会いが沢山あってとても楽しかったが、近くの旧家の藤棚に枯れた藤の実の莢が振じれ、実が全部弾け風に揺れているのを観ていたら、最近日本中のあちこちで地震が頻繁に起きているので、また大きな地震が起こりそうな気がした。

枯れ藤の莢の振じれや地震（ない）近し

ともあれ今日も穏やかに過ごせた事に感謝しながら岐路についた。

水元公園

後藤菊子

だいぶ春めいて来た四月の上旬、友達数人と都立水元公園に行ってきました。面積八十八畝ほどの広大な土地に小合溜（こあいだめ）と呼ばれている溜池が広がり、その周りにはシダレヤナギ、ハンノキ、メタセコイヤ、ラクウショウなど水辺を好む木々が美しい芽吹きと樹形で迎えてくれました。

春の空メタセコイヤの総立ちに

対岸は埼玉県立三郷公園です。この池は江戸の町を水害から守るために幕府の命令で造られた溜池です。眩しいほどの木々の芽吹きと、満開の桜並木の下で大きく深呼吸をしてこの美しさを眺めていました。ゆっくり歩いて行くと、足元にラクウショウの膝根（気根）と呼ばれる不思議なたちの呼吸根が目に入りました。他の植物が根腐れを起こしてしまう水湿地でも、この膝根があるのでよく育つようです。大きい物は高さが三十センチほどもありました。

沼杉の気根の湿り春の雲

内溜の釣り場では細くて短い竿を垂らしてモロコ、タナゴ、フナなどを釣っている人達がずらりと並んでいました。

風やはし諸子に紅き浮子放ち

水辺に沿って歩いて行くとバードサンクチュアリーがあり覗き窓から見るとカイツブリ、ヒドリガモ、コガモ、オオバン、バン、カワウなどが観察できました。特にカワウのコロニーは騒がしく木々には沢山の巣が作られ、あたり一面カワウの糞で真っ白でした。

ざわざわと川鷄コロニー抱卵期

中央広場では、沢山の家族連れが、それぞれのんびりとした時間を過ごしていました。この公園では犬を連れて来ている人達が大勢いるのに気が付きました。そしてドッグランも設けてあり犬たちもそこに放され大喜びでした。

ぐるりと園内を廻り水郷風景ともお別れして、近くの業平山東泉寺内蔵院という天台宗の寺に参拝しました。境内には本堂、鐘楼、聖徳太子堂、地藏堂などがあり開山以来六百年法脈を伝えているとのことでした。

特に地藏堂の「しばられ地藏」は八代将軍徳川吉宗の治世、町奉行大岡越前守忠相が、この地藏尊を罪人として縄を打ち、その後、見事な大岡裁きで盗賊を一網打尽にしたという逸話から盗難除け、厄除け、縁結びなどの御利益がある地藏尊として、願い事をする時は地藏尊に縄を縛り、願が叶った時は縄を解くという風習が生まれたようです。因みに縄は一本百円です。解き縄が地藏尊の脇の箱に山盛りに入っていました。

解き縄の箱にあふるる日永かな

今日も長閑で有意義な一日でした

亀戸天神

後藤菊子

ゴールデンウィークも過ぎた五月の中旬、東京の亀戸天神に吟行に出掛けました。〔右〕亀戸駅に下りるとビルが立ち並び下町の情緒があまり感じられませんでした。が十五分程歩くと細い路地が幾つもあり、ああ亀戸に来たんだという思いがしました。亀戸天神は徳川四代將軍家綱が本所一帯の開発に当たり現在の地に土地を寄進して、九州の大宰府天満宮を模して建立したとの事です。関東各所の天満宮の宗社で將軍も参拝したそうです。天神様の鳥居を潜ると、目の前には、安藤広重の錦絵にも描かれている朱色の太鼓橋があり藤棚が心字池を囲んでいました。藤は盛りを過ぎていましたが、その若葉がしなやかに風に揺れて美しいこと・・

心字池には数えきれないほどの亀（ほとんどミシシッピーアカミミガメ）と大きな鯉がのんびりと泳いでいました。亀を眺めていたら・・・・・

亀にもある器用不器用薄暑かな

境内には樟が多く若葉が眩しいほどでした。参拝を済ませて境内を歩いていたら、本殿に向かって歩いて来る空色の袴の神官と擦れ違いました。

摺り足の若き神官樟若葉

本殿の前には神牛として有名な青銅の「撫で牛」が祀られていました。自分の悪い所にあたる牛の箇所を撫でると治ると言われているので、牛のあちこちが撫でられて光っていました。天神様を出て横十間川に沿って亀戸七福神の一つ龍眼寺に向かいました。手入れの行き届いたこの寺は萩の時季になると参拝者も多いとの事でした。境内には芭蕉の句碑や落合直文の歌碑などがあり、やわらかな若葉を付けた萩が一メートル程に丈を伸ばしていました。庭には造り滝や池もあり、みごとに緋鯉が泳いでいて心が安らぎました。少し休憩させて頂き寺を後にしました。

寺を出ると静まりかえった路地の家の庭にウツギの花が揺れていました。

寺町の路地の閑けさ花空木

いくつもの路地を行くと毘沙門天を祀っている普門院という寺に着きました。この境内はあまり手入れがされていませんでしたが、歌人伊藤左千夫の墓があり女性の参拝者が多く参っていました。

俯きて左千夫墓碑訪ふ白日傘

久し振りに下町を吟行して楽しい一日でした。

運河めぐり

後藤菊子

梅雨晴れの日を日本橋からスカイツリーのある「おしなり公園」までの「運河めぐり」を楽しみました。

江戸時代から賑わいの中心であった日本橋はこの日も大変な人出でした。

いよいよ乗船、といっても十人ほどが乗る可愛らしい舟でした。いつも歩きながら見ていた日本橋界隈を舟に乗って見てみると、周りの景色がだいぶん違って見えてきました。かつて交通手段が主に舟であった頃、この日本橋川は荷を積んだ大小の船でゴったがえしていたであろうと、思いを馳せながら日本橋を潜り、両側のビル群をぬって江戸橋から鰐橋、茅場橋、湊橋、豊海橋と、少し濁った運河の風をうけながら舟は進みました。

真昼間の水の粘りや夏運河

橋はかなり高く舟には屋根もあるのですが、橋を潜る度思わず身を屈めてしまいました。

梅雨晴れや橋潜る度身を屈め

豊海橋を潜ると隅田川に出ました。大川と呼ばれていた隅田川に出ると風がさらに心地よく感じられました。

さて、江戸前という「鮎屋」を連想しますが、江戸時代は「鰻屋」を指したそうです。江戸前の鰻とは隅田川河口部と小名木川の深川産に限られていたようで、小名木川は「うなぎさや堀」と呼ばれて沢山の鰻が獲れたそうです。

深川界隈は家康以降の埋め立てにより運河や掘割が整備され、その石積みが鰻の住処となったようです。

大小の船と行き交いながら隅田川大橋、清洲橋と進み左手に芭蕉記念館と芭蕉像を見ながら万年橋、新小名木川水門から小名木川に入りました。その昔、芭蕉も見たであろうこの川を静かに進み、高橋、西深川橋、東深川橋、大富橋、新高橋、新扇橋を潜り扇橋開門に入りました。運河の岸に舟が寄せられ水門が閉じ水位を調節する間、十五分程待たされました。その間もくもくと湧き出した入道雲と向かい合いました。

開門に入りて対峙す雲の峰

さらに小松橋、クローバー橋と進み横十間川に入りました。五つばかりの橋を過ぎ、JRの総武線の橋を潜りさらに五つほどの橋を過ぎ北十間川に入りました。

スカイツリーがだんだん近づいてきて、終点の「おしなり公園」¹⁸に到着しました。こんなに近くでスカイツリーを見たのは初めてでした。東京¹⁸ノマチと呼ばれるこの界隈は思ったような賑わいはなかったのですが、高階から隅田川を見下ろし、美味しいスイーツを頂き大満足の一日でした。

ジェラートを食みて眼下に隅田川

今年 米

後藤 菊子

今年は九月の下旬になっても日中は暑い日が続きましたが、二十四節気の一つである白露を過ぎた頃から朝夕なんとなく、肌に秋を感じられるようになりました。

時間があつたので、久し振りに町内を散策してみましたことにしました。

まず歩いて五分程の漕同宗の重俊院に寄ってみました。境内にある何本かのムクロジやシキミも青い実を付けはじめていました。

禅寺の葎酒は入れず櫓の実

生実藩の初代藩主重俊公の墓碑は何時参っても荘厳で立派でした。墓碑の前の立派なイチヨウ大樹が見守っているように思えました。

寺を出て二十分程歩くと「千葉市埋蔵文化財調査センター」に出ました。

丁度子供達が課外授業で、センターの前で縄文人のしていた火起しの実習をしていました。子供達は汗だくで作業をしていましたが、なかなか火が付かないようでした。私も以前試したことがありましたが、大変な思いをしました。

火起しの体験学習汗しとど

縄文人の食生活などを思いながら谷津田に出ました。少し前に来た時は学校田の水は落とされひっそりしていましたが、この日は丁度稲刈りが終ってにぎやかに稲架掛をしていました。

背伸びして稲掛ける子等棚田晴

楽しそうな子供達の声が広がっていたので、少し見学させて貰いました。

少し行くと大百池に出ましたが、まだ冬鳥の渡りはありませんでした。

カルガモ、バン、オオバンなどがのんびり泳いでいました。

大百池の森に入りイチヤクソウを観てみました。来るたびに観て、落葉などを少しずつ整理しています。株はだいぶ殖えているのですが、花付が少し悪いようです。来年はどのくらい花を付けてくれるのか楽しみにしています。

帰り道の途中に立派な冠木門のある旧家の前を通ったら、声をかけて頂き縁側で新茶を御馳走になりました。此のあたりは井戸水を使っているので、一段と美味しいお茶を頂きました。お盆、お彼岸と人の出入りが多かったのでやっと落ち着いたところだと話していました。玄関の三和土もきれいに片付いていて、旧家の大変さを垣間見たような気がしました。

彼岸明けの常に戻りし三和土かな

丁寧にお礼を言って旧家を出ました。今夜は新米を炊いて頂き、明日からまた頑張らなくては・・・

今年米背すぢ伸ばして生くるかな